



<研究主題>

児童生徒が自分で考え、もっと学びたくなる授業づくり

～学びの過程、内面の育ちに着目した授業研究～

【高等部】

12月に全校授業研究会を実施しました。高等部1年生 生活単元学習の授業を通して、学部の研究テーマに基づく協議題を設定し、ワークショップ型の授業研究会を行いました。

<協議題>

自分で考え、判断して行動する姿が授業の中でどのように表れていたか。

★単元名★ 「〇〇にトライ！～教育センターでトライ！（作業学習製品販売）～」

★授業説明★

- これまでの学習を通して、教師や友達とやりとりする中で自分から発言したり、自分の考えを選択肢から選んだりできるようになった生徒が増えた。また、失敗を恐れ、活動に消極的な生徒も繰り返しの活動により、見通しをもつことで自分の役割を理解し、活動できるようになってきた。今年度、地域の施設の商品を校内で販売したり、作業班や作業学習製品を紹介したりする学習に取り組んできた。コロナ禍で行事での販売が中止になり、制限はあるが、隣接する教育センターでの出店を通して、校内外の人と関わることで称賛され、喜ばれる経験を積み重ねることで、自信をもって自分から行動し、適切な方法で他者と関わる力が高まると考えた。
- 販売に向けて必要な物品の制作活動を行った。生徒同士で声を掛け合ったり、協力して制作を進めたりするグループもあり、成長を感じた。グループごとに報告する際に、聞く態度や発表の仕方、方法、ルール等については課題があるため、今後力を付けていきたい。



★協議から★

- のぼりのレイアウトや制作活動など、生徒同士で考えたり、相談したりしながら進められるところは生徒に任せ、対教師から対生徒になっていけるような手立ての工夫をしてはどうか。
- 双方向のやり取りができるグルーピング、グループを超えて相談できる手立てや環境設定はどうか。
- 振り返りでは、目標に沿った具体的な姿や協力した場面を視覚的に伝えたり、制作過程の物を紹介したりすることで、次の目標や「協力」とは何かを理解できる生徒もいるのではないか。

<指導助言> 秋田県総合教育センター 主任指導主事 北島 英樹 氏

- 生徒が制作活動に集中しているときは他者の様子は自分の視界から排除され、生徒同士の会話や関わりが控えめになるため、教師の役割として生徒と生徒をつなぐ手立て、生徒の気付きを促す言葉掛けや支援が必要になる。
- 「自分で考え、判断して行動する」場面はどのように設定され、そのための生徒一人一人への個別の手立てをどのように考えていたのかが今日の授業づくりの肝だったと考える。授業を通して生徒一人一人の内面の見取りがどのくらいできたか、内面の育ちも含め、今日の授業を授業者で振り返り、次からの授業につなげてほしい。
- 活動において「協力」の意味づけを生徒一人一人にすることが大切であり、仲間の誰か一人でも欠けたら到達しえない、完成できないという意識付けをしていくことが大切ではないか。仲間が悩んで困っているときには一緒に考試行錯誤しながら目標に向かって頑張る気持ちを育ててほしい。卒業までの間、仲間と共に楽しい学校生活の思い出を作って社会に旅立つことを願っている。